

B-86 ギャザースカートに関する研究(オ1報)素材の物性とギャザー効果の関係
東海学園女短大 ○辻 啓子 伊藤きよ子 加藤典子

目的 ギャザースカートの美しさはギャザリングによって作り出されるドレープにあるが、その効果は素材やギャザー分量によって異なる。本報では一般にギャザースカートに用いられる素材を選択し、ギャザー分量の差によるギャザー効果と素材の物性との関係を、胴囲、腰囲を円と考へたモデルと人台に着用させた場合について比較検討した。

方法 試料：繊維組成、組織、曲げ剛さ、厚さ等を考慮し、市販の中から8種選択した。スカート作製の条件：9号サイズの人台を基準に胴囲寸法60cm(ゆとり2cm)、腰囲寸法90cm、腰丈19cm、スカート丈68cm、ベルト幅2cmと設定し、ギャザー分量は胴囲寸法に対し2.0、2.5、3.0、3.5、4.0倍の5種とした。またハムは裁切りのままとした。外観効果の観察：ハム曲線の形状を写真にとり、胴囲を円と考へ下垂させた場合(C₁)、モデル(C₂)、人台(C₃)の3通りについて検討した。

結果 1. 素材によるハム曲線の形状の差はノード数、ノードの山の高さ、山と谷の角度、垂下面積にみられ、それらは素材のドレープ係数、曲げ剛性との相関が高い。すなわちドレープ係数、曲げ剛性の小さい素材はノード数は多く、山の高さ、山と谷の角度、垂下面積は小さい。2. ギャザー分量のちがひによる形状の差はノード数、山の高さ、山と谷の角度、ノード指数にみられた。3. C₁では山の高さ、垂下面積に試料間の有意差は認められなかったが、C₂、C₃では有意差が認められ、素材の物性がスカートのシルエットにおよぼす影響は大きい。